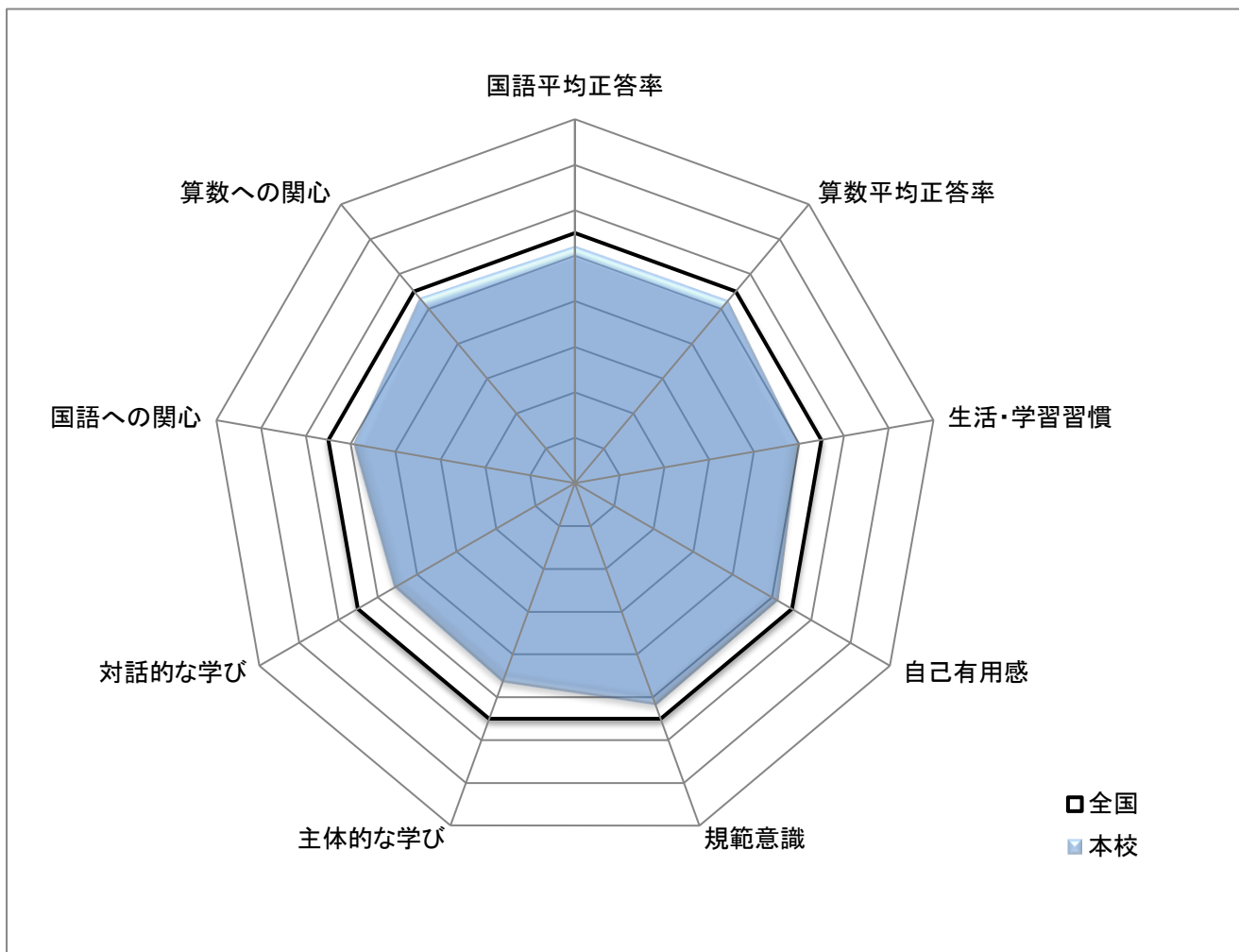


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・算数においては、「量と測定」の領域についての結果が全国平均を大きく下回っている。また、記述式の問題は正答率が低だけでなく、無回答率が著しく高いことも課題である。
- ・国語においては、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「話すこと・聞くこと」について課題がある。
- ・「書く」ことについては、国語の結果の中で最もよかった。校内研究の成果と考えられる。

《授業改善のポイント》

- ・図形の構成についての見方を働かせ、示された図形の面積の求め方を解釈し、求め方についての説明ができるようにする指導の充実を図る。→既習事項を使い、自分の言葉で説明する機会を設ける。
- ・同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使う指導の工夫。→低学年のときから既習漢字は必ず漢字で書くよう指導を行う。
- ・必要な情報を得るために、目的に応じた質問をする指導の工夫。→他教科でも意図的にインタビューや交流の機会を設ける。交流させるときには、児童に質問をさせることを意識し、単なる発表で終わらないようにする。

《チャートの特徴》

- ・このチャート図は、「全国学力・学習状況調査」及び「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を表したものである。太線は全国平均を表している。
- ・本校の特徴は、いずれの項目も全国平均をやや下回っている。中でも「主体的な学び」「対話的な学び」においては特に低い。
- ・本校の結果の中でよかった項目は、「算数への関心」、「自己有用感」であった。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭学習のヒントや家庭学習の手引きを年度当初に保護者に周知し、学習に対する児童の意識が学校だけでなく家庭でも高まるようにする。
- ・学期ごとに1週間、家庭学習週間を設け、1日の起床・就寝時刻、挨拶、宿題や食事について児童と一緒に振り返る機会を設ける。